厚生労働科学研究委託費（感染症実用化研究事業）
委託業務成果報告（業務項目）

新型インフルエンザ発生時の医療従事者による治療法の標準化に関する研究開発

担当責任者　氏名　大曲　貴夫　国立国際医療研究センター国際感染症センター長

担当者　　氏名　田辺　正樹　三重大学医学部附属病院准教授

研究要旨
「成人の新型インフルエンザ治療ガイドライン」やWHOの最新ガイドライン「**医療におけるエピデミックおよびパンデミック傾向にある急性呼吸器感染症の予防と制御**」等を踏まえ、全国の医療従事者が新型インフルエンザ発生時の診療について知っておくべき知見を整理し、講義素材を作成した。平成26年のエボラ出血熱対策強化の過程で得られた知見の活用が有用と考えられた。

A．研究目的

新型インフルエンザ発生時には患者に対して医療従事者の適切な診療行為により、最善の治療を施すのはもちろんのこと、医療従事者や病院関係者、その他の患者への院内感染等を適切に予防し、安全に診療を行う必要がある。本研究は、諸外国のベストプラクティスを参考にしつつ、 新型インフルエンザ発生時の医療従事者による治療法の標準化をはかり、単に治療に止まらず、院内の患者動線の設定やPPEの着用等を含む総合的な標準プラクティスに関する知見を共有するための資料を示すことを目的とする。

B．研究方法

新型インフルエンザ等政府対策行動計画、ガイドライン、成人の新型インフルエンザ治療ガイドライン等を題材として、医療従事者（医師・感染管理看護師）に有用な資料を集約し、講義素材を作成した。感染予防に関する海外のベストプラクティスとしては、WHOの最新ガイドライン「医療におけるエピデミックおよびパンデミック傾向にある急性呼吸器感染症の予防と制御(Infection prevention and control of epidemic and pandemic-prone acute respiratory infections in health care) 」を参考にして重要な内容を抜粋し、講義資料を作成した。ワークショップの試行開催時に医師・感染管理看護師向けに講義を試行的に行い、質疑や意見等を反映し配布用資料にすることとした。

（倫理面への配慮）

研究実施にあたり、個人情報の使用や介入等はなく、特段人権擁護上の配慮等は必要としない。

C．研究結果

講義用資料は、パワーポイント形式で作成した。冒頭に政府行動計画概要、ガイドラインの概要を抜粋し、「成人の新型インフルエンザ治療ガイドライン」の概要説明資料を作成した。また、院内の感染対策として、WHOガイドラインより抜粋を示した。なお、本ガイドラインについては、教材作成にあたりWHOに申請を行った上で全文翻訳を作成しており、普及啓発用の資料とし、ワークショップ参加者を中心とした関係者に配布した（**別冊２**）。

平成27年2月6日開催のワークショップでは、医師・感染管理看護師向けに本資料を用いた講義を行った。9名中8名が「良かった」または「とても良かった」と回答しており好評であった。質疑等を元に講義用資料を作成した（**資料２**）。

D．考察

本講義資料では、国内の３学会を中心に作成された「成人の新型インフルエンザ治療ガイドライン」をベースに作成した。新型インフルエンザは、発生してみないとその病原性等や最適な治療法について知見は得られない。しかし、鳥インフルエンザの人感染例の治療事例等を参考にしつつも、季節性インフルエンザにおける軽症から重症のインフルエンザ診療がその基本であることは確かであり、日常的な季節性インフルエンザの診療行為の底上げが不可欠であろう。今後も季節性インフルエンザでの最新知見や、鳥インフルエンザの人感染事例の治療経験等を踏まえ、最新の科学的知見に従って資料をアップデートしていくことが望ましい。

ワークショップでの質疑応答では、ECMOによる診療、疑似症の定義と患者搬送、重症度による対策の変更、に話題が及び議論を行った。現時点では明確な指針もないことから最終的な講義資料への掲載は見送ったが、今後の体制検討の中で議論が必要な事項である。

スタッフにとって、また患者にとっても必要十分な感染管理下での安全な診療行為は、蔓延防止と診療の継続という双方の観点から重要である。本講義資料では感染性の高い呼吸器感染症を念頭に置いた感染管理に関する最新のWHOガイドラインの要点を講義資料として抜粋して作成した。本ガイドラインの翻訳文は、より詳細な呼吸器感染症の感染管理方法を示すものであり、ワークショップ参加者ほか関係機関に配布予定である。日常的な診療での基本的な感染管理の底上げが新型インフルエンザ対策の基本であり、医療機関にとって有用な資料となることが期待される。今般の西アフリカにおけるエボラ出血熱の流行は、国内における感染管理の底上げにつながり、訓練等を通じて一種感染症指定病院を中心として、実際のオペレーションに多くの知見と示唆を与えるものだった。これについても講義資料には盛り込まれた。今後も新たな知見が得られるような事態があれば、新型インフルエンザ対策という側面からも順次アップデートしていくことが望ましい。

講義は、新型インフルエンザ等対策ワークショップの中で、1時間半を行政担当職員向けには「プレスリリースの書き方」の講義を行う一方で、医師・感染管理看護師向けに「新型インフルエンザ等発生時の診療」というタイトルで対象者を分けて行われた。これは前年度のワークショップで、参加医師の中から出た意見を踏まえたものである。ワークショップは医師・感染管理看護師と行政担当者が一緒になって新型インフルエンザ対策を行うためのトレーニングを目的とはしているが、講義部分については、必要な知識は異なる部分がある。今回のワークショップのような講義の構成は、異なる職種に共に有意義な時間を過ごしてもらうための企画としても成功したと考えられる。聴講人数も絞られたため、質疑応答もより充実させることができた。

E．結論

「成人の新型インフルエンザ治療ガイドライン」やWHOの最新ガイドライン「医療におけるエピデミックおよびパンデミック傾向にある急性呼吸器感染症の予防と制御」等を踏まえ、全国の医療従事者が新型インフルエンザ発生時の診療について知っておくべき知見を整理し、講義素材を作成した。平成26年のエボラ出血熱対策強化の過程で得られた知見の活用が有用と考えられた。

F．研究発表

1．　論文発表

大曲 貴夫．今月の疾患インフルエンザ．Medical Practice．31(12)．pp.1856-1857(2014.12)

2．　学会発表

なし

G．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3.その他

なし